

PTA

やまがた

第39号

平成27年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 新関 徳次郎

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『育もう 強くやさしい心の子どもたちを』

～共に汗をかき 共に笑い合えるPTAを目指して～

強くやさしい心の 子どもたちを育てるために

山形県PTA連合会会長 新 関 徳次郎



たちをく共に汗をかき、共に笑い合えるPTAを目指して」というスローガンのもと、様々な活動を展開して参りました。これらの活動に對し、しても皆様方から深いご理解とご支援を賜りまして誠にありがとうございます。

年 度末を迎え、時の流れの速さに改めて驚いているこの頃ですが、皆様方におかれましてはそれぞれの郡・市PTA連合会、単位PTAそして地域社会においても子どもたちを健全に育む環境づくりに鋭意ご努力されておられますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

今年度も山形県PTA連合会は、「育もう 強くやさしい心の子ども

さて、私たちが最も大切に行っている研修活動の集大成として「第六十六回山形県PTA研修大会天童・東村山大会」を天童市、山辺町、中山町を会場にして県内各地から約一千名の会員の参加をえて、「豊かな関わりの中で、仲間とともに成長する子どもを育むために」複雑化・多様化する社会に對応したPTA活動」という大会主題のもと、盛大に開催されました。午前中の五つの分

科会では、それぞれの課題に添った

熱心な話し合いがもたれ、参加者はパネリストやコーディネーターとともに共感し、これからのPTA活動への想いを確かめ合うことができました。午後からの全体会では、(株)

佐藤繊維の佐藤正樹社長の記念講演があり、極細モヘヤ糸の開発に至るものづくりの姿勢は今後のPTA活動のあり方に大きな示唆を与えてくれるものでした。一市二町にまたがる広域開催にもかかわらず、緻密な計画と連携で円滑な大会運営をしていただき、実行委員会の想いが伝わる素晴らしい大会でした。天童・東村山地区PTAの皆様方に感謝申し上げます。

また、県PTA母親委員会では、「命の尊さ、大切さ」のテーマで継続して学び、子育ての悩みを共有しながら解決に向けた取組を続けていきます。子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化していますが、「命の尊さ、大切さ」は、普遍のものであります。これからも母親としての特性使命を活かした研修活動に

ご期待申し上げます。

今年度県PTA連合会では、情報モラル育成のための啓発資料(DVD)を作成し、「いじめ問題・ネットモラル育成」のための学習会「親学」を推進して参りました。県内全ての各郡市PTA連合会で研修会を開催していただき、親学を深めていただいたことに感謝申し上げます。いじめの問題・ネットモラルの問題については今後とも継続して取り組みなければならぬ重要な課題と考えています。

私たち親は、子どもたちに「楽しい学校」「大好きな家族」「幸せな自分」を感じてもらい、強くやさしい心の子どもたちに育つて欲しいと願っています。そのためには、たくさん課題がありますが、共に汗をかきながら、ひとつひとつの課題に真摯に取り組む、共に笑い合えるPTAをめざして努力したいと考えていますので、今後とも本会の運営にご協力を宜しくお願い申し上げます。

連携してネットトラブルから子どもを守る



山辺町立山辺小学校
校長

庄 司 健 二

IT環境が急速に整備され、私たちの生活が便利になった一方、子どもたちの間ではゲームやネット依存、ラインいじめ等（以下ネットトラブルと略）の問題が深刻化しています。

また、IT機器への接触は、大人の認識を遙かに超えるスピードで低年齢化しています。手軽に携帯型ゲーム機でネットに接続できますし、子どもは吸収するのが早いですから、知らないのは周りの大人だけといった事態も珍しくはありません。

従来は中学校や小学校高学年で行っていたネットトラブル防止教室も、中学年から実施する学校が増えていきます。問題が発生してからではなく、未然防止で何ができるか、我々大人が真剣に考えなければならぬ時期に来ています。

これらの問題には、当該校がPTAと連携して取り組むこと

がまずもって必要ですが、他校の子どもとのつながりや、不特定多数との接触がある点を考慮すると、一つの学校の取り組みでは限界があります。今後は当該学校やPTAのみならず、地域や市町全体で取り組むことで、効果を上げていくことが必要です。

本町では、町PTA連合会において、町全体の子どもたちのネットに拘わる実態を把握し、ネットトラブルの拡大が懸念されるという危機感を共有することができました。そして協議を経て、スマホ、携帯、ゲーム機など通信機能を持った機器は、①本当に必要なかどうか話し合う、②不要なものは持たない、③使用の約束を守る、④夜八時（中学生は九時）以降は使わない、という取り組みを決定しました。各校ではこのことを全保護者に伝え、取り組みを始めているところです。

ネットトラブルの問題から子どもたちを守るのは、保護者の皆さん自身です。こうした町全体の取り組みが危機意識を高め、ネットトラブルから子どもを守ることにつながればと期待しています。

県P研修大会天童・東村山大会を終えて



実行委員長

三 宅 和 広

県

内各地より約一千名の皆様からご参加を賜り、第六十六回山形県PTA研修大会天童・東村山大会を滞りなく開催することができました。大会の開催にあたり多大なご支援を賜りました関係各位、また準備や当日の運営に当たっていただきました実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。

今回の研修大会は「豊かな関わりの中で、仲間とともに成長する子どもを育むために」複雑化・多様化する社会に対応したPTA活動―を大会主題に掲げ、分科会、全体行事、記念講演で構成しました。

分科会では、それぞれのテーマに沿った具体的な先進事例の発表と活発なディスカッションが行われました。四〜五人ずつに分かれてのグループディスカッションを取り入れた分科会もあり、各分科会とも課題解決

の参考になったものと思います。記念講演では、佐藤織維株式会社 佐藤正樹さんから「世界に一つの糸を紡ぎ出す」という演題でご講演いただきました。

「やりたいことを見つけ、その実現のために着実に一歩ずつ進んでいく。やれない理由を考えるのではなく、やるためには何が必要かを常に考える。」というお話に感動しました。参加者アンケートでもほぼ全員の方から満足したとの回答をいただきました。

研修大会に参加すること自体が目的になってはいけません。参加した成果を実践することにより、子どもたちが健やかに成長することが目的です。研修大会に参加しなかったPTA会員にも学んだことが伝えられ、そして全員がそれらを実践し、親・PTA会員としての意識の向上につなげていただくとともに、郡市PTAや単位PTAでの活動に実際に生かしていただければ幸いです。PTA活動のさらなる発展のためにみんなががんばっていきましょう。

山形県PTA母親委員会の活動報告



山形県PTA母親委員長
堀田 理恵

県

PTA母親委員会の活動を皆様にご支援いただき展開できましたこと、心より感謝申し上げます。また、それぞれの郡・市PTA母親委員会におかれましても、活発に活動が行われましたことに対しお礼申し上げます。

今、子どもたちの回りではどのような事がおきているのか、それに対しどのような研修が必要なのか情報を交換し、子どもの問題を共有してまいりました。そこで、「命の尊さ大切さ」のテーマのもと、「受動喫煙防止」や「ネットモラル」について学びました。「受動喫煙防止」の研修では、子育て世代である「親の喫煙」や「子どもの受動喫煙」の弊害について学び、子どもたちの健全な成長に

影響を及ぼすタバコの有害性を考えると、子どもにとっても大人にとっても、受動喫煙を防止することは大切だと感じました。

ネットモラルの研修では「ネットに依存しない子 ネットを賢く安全に使える子を育てる」と題し、グリー（株）小木曾健氏をお迎えし、インターネットに関するトラブルの恐ろしさやその対処法をお聞きしました。お互いに顔の见えない「ネット」では軽い気持ちでとった行動が、イジメや犯罪にまで結びついてしまう場合もあります。ネットモラルについて親子で考えることや、問題がおきた場合には一緒に解決できるように、親の知識も必要とされています。積極的に学び、子どもたちがトラブルに遭わぬよう見守り、寄り添っていきたいと思います。

今後母親委員会では情報を共有し共に学び、母親同士のネットワークを大切にしながら、家庭教育力の向上に努めてまいります。

第二回母親委員会 五月三十一日

- ・正副委員長選出
- ・活動計画及び情報交換
- ・研修「受動喫煙防止を進める理由とその対策」 講師 川合厚子氏
- ・第二回母親委員会 九月二十日
- ・各研究大会報告
- ・研修「ネットモラル講習会」 講師 小木曾健氏

第三回母親委員会 十一月七日

- ・「母親委員会だより」作成案
- ・情報交換
- ・県教育委員会と県P連・高P連の合同教育懇談会参加
- ・第四回母親委員会

平成二十七年一月二十四日

- ・「母親委員会だより」について
- ・今年度の反省及び情報交換
- ・研修「親が子どもに教える性教育」 講師 山口節子氏
- ・「親学」家庭教育研修会
- ・秋田市立勝平小学校視察研修
- ・「母親委員会だより」No.18
- ・平成二十七年二月発行

各地区のおもな活動報告

《山形市》

- ・母親委員会 二回
- ・「親学」家庭教育研修（遊佐小学校視察研修）
- ・拡大母親委員会一回
- ・講演「子どもたちを守るため、親としてできること」 講師 山脇由貴子氏
- ・（東京都児童相談センター児童心理司）
- ・「マザーズねっとわーく」発行
- ・《上山市》
- ・母親委員会 三回
- ・研修会、情報交換 一回
- ・講演「家族の守備力をアップする話」 講師 高橋史香氏（消費生活アドバイザー）
- ・《天童・東村山地区》
- ・今年度は、山形県PTA研修大会主管地区であったため、母親委員会の活動は行わず研修大会の運営に携わりました。
- ・「母親委員会だより」発行
- ・《西村山》
- ・母親委員会 三回
- ・*協議 *講演会（高橋芳子氏）

- ・代表委員会三回（母親委員会の企画運営）
- ・《北村山地区》
- ・北村山地区Pとしての活動はないが、村山市P、尾花沢市P、大石田町Pは母親委員会組織があり、各々単位PTAで活動を行っている。
- ・《最上地区》
- ・定例母親委員会 二回
- ・地区母親委員会全員研修会年一回
- ・講演「親として地域として子どもとどう向き合うか」
- ・（家庭や地域におけるいのちの教育）
- ・講師 後藤敬子氏（県家庭教育アドバイザー）
- ・演習「地域や家庭で取り組めること」
- ・《米沢市》
- ・母親委員会 四回
- ・*情報交換：二回 *講演会：一回
- ・*研修会：一回
- ・《東置賜地区》
- ・地区P代表母親委員1名が県P母親委員会に出席しています。
- ・《西置賜地区》
- ・定例母親委員会 二回
- ・母親委員会だより発行（各校活動報告等）
- ・《鶴岡市》
- ・母親委員会／年二回
- ・（活動方針、情報交換、研修会、等）
- ・ブロック会議／年三回
- ・（担当の単P母親委員による企画運営会議）
- ・母親委員会だより（年一回／二月発行）
- ・《東田川郡》
- ・母親委員会 二回
- ・*活動報告 *情報交換等
- ・《酒田飽海》
- ・母親委員長等会議 二回
- ・第一回 情報交換 第二回 講演会
- ・講師 國眼眞理子氏（東北公益文化大学）
- ・「保護者同士の人間関係づくりや教師と保護者の関係づくりのために」
- ・酒田飽海PTA研修大会への協力

「子どもたちが、進展するネット社会を生き抜くためにPTAができること」 ～スマホ依存やいじめ対策を考える～

今、子どもたちを取り巻く環境は、高度情報化社会の中で必要な物やサービスは何でも手に入り、自由で便利である反面、集団との関係は薄れ、価値や判断基準は個々人が行う「個人化」の傾向が強くなっています。こうした中でスマートフォンが子どもたちの間にも普及し、新たにいじめや不登校などの問題行動が増加し、基本的生活習慣や規範意識、学ぶ意欲の低下が指摘されています。

これからの次代を担う子どもたちが、心身ともに健康で逞しく、豊かな社会性を身につけた人間に成長するために何ができるのか。家庭・学校・地域が緊密に連携しながら、真剣にネット社会と向き合い、有効な対策を講ずる必要があります。そのため次のような視点で話し合いました。

〈山形中央高校PTAの取り組み〉原田裕行 会長

- ・携帯電話の利用状況について、教員と生徒で構成されている『生徒保健委員会』とPTA保健部と合同でアンケートを2回実施(9月生徒対象・12月生徒と保護者対象)
- ・“ブルーライト”の心身に与える影響について、PTA講演会(保健講話)を開催
- ・生徒の8割が携帯電話(うち9割がスマホ)を所持しているが、利用ルールを決めている家庭は3割を切っている現状が浮き彫りとなった⇒生活の乱れやスマホ依存の問題
- ・親子の信頼関係が携帯で試されている⇒ネット社会と上手く付き合う方法について、子どもと話し合いの場をもつことが保護者の責任 ※山形県PTA連合会制作DVD紹介
- ・今後も『PTS』(S=Student)の3者が同じ場所で講話を聴く場を継続して設けていく

〈朝陽第六小学校PTAの取り組み〉渡部宏一 会長

- ・『鶴岡市いじめ防止対策の推進に関する条例』、『鶴岡市いじめ防止基本方針』を受け、各学校でも方針を策定し児童生徒・保護者・教職員の研修を実施、PTA活動にも期待
- ・鶴岡市PTA連合会として市教育委員会との懇談会実施⇒教育委員・教委職員と単P会長とのグループディスカッションを実施し、昨今のネット事情やいじめの事例を共有
- ・iPodや3DS等でも『LINE』や、ネット通信が可能であるため、小学生でも犯罪やいじめ等のトラブルに巻き込まれる危険性が多々ある。
- ・親がスマホを持っておらず、ネット事情に疎い為、講習会や研修会を通して学ぶ場を持つことが必要
- ・スマホ免許性や学校や家庭でのルール作り等の対策を講じていくことが大事

視点1：⇒スマホ依存やいじめをなくすために家庭・学校が共にネット社会の現状を理解し有効な手段や方法について考える

- ・警察や携帯電話会社、アプリ提供企業等より講師を派遣してもらい、先生や保護者だけでなく子どもたちも一緒になって講習会や研修会に参加し、知識を深めていく
- ・公表されないネット犯罪(特に性犯罪)が身近にも発生し、年々その数が増加している
- ⇒特に15歳以下の被害が急増している事実を理解する必要がある
- ・学校やPTAが協力し、学校内外でのトラブル防止の働きかけを行っていく
- ・学校外での使用によるトラブルが多発していることから、家庭での親子のコミュニケーションを通し、しっかりと話し合いルール作りをすることで子どもたちを守る

視点2：⇒ネット社会の中で子どもたちの「学ぶ意欲」を高めるために、家庭と学校が連携してできることを考える

- ・ネット社会の普及に伴い、排除するのには限界があるため、しっかりとした使い方(ルールや仕組み)を教えるべき
- ⇒高校では学校単位のルールを作り、利用をTPOに合わせて規制している
- ・小学校、中学校時代のネットモラル教育が大事⇒授業への組み込み
- ・PTA主導で家庭での基本ルールを策定し、『家庭教育宣言』として取り組む
- ・スマホ(ブルーライトの影響)利用による学習時間減少や睡眠障害等による学力低下やLINEによるいじめから子どもたちを守るために、大人(県教委・学校・保護者)の知恵で子どもたちを救っていく！

〈総括〉

- ・ネット社会で生きていく中で、講習会や研修会での学びとルール作りが大事
- ・保護者と学校と一緒に、SNSの恐ろしさを子どもたちに知らしめていく
- ・家庭でのルール作りの指標を示していくことが今後の課題
- ・県をあげての教育プログラムが必要！⇒節目節目の研修会を県全体でカリキュラム化
- ⇒基本的な指針となるテキストや教材の制作が急務
- ※節目＝小学校入学時の保護者対象、小学校高学年でのネットモラル研修、中学校入学時の親子の研修等



〈講評〉鈴木生涯学習振興室長

- ・ネットモラルの学習は現在の教育における最重要課題と認識
- ⇒IT機器に関するリテラシー調査より
- ◎家庭での会話が多いとリテラシーが高い
- ◎PCを使用していた子はリテラシーが高い
- ×PCを使用せず、すぐにスマホに入った生徒はリテラシー低い
- ×スマホへの依存度が高い(特に女子生徒)とひきこもりや健康被害に繋がる
- ・個人情報一度ネットに流出すると、一生消せない恐ろしさを知らしめる
- ・『早寝・早起き・朝ごはん』の原点に立ち返り、子どもたちの健康を維持する取り組みを継続していく⇒そのためには家庭でのルール作りが大切

〈最後に〉菅野教育長

- ・県教委としてもIT関連との共存について問題意識を持っている(特に成績への影響)
- ⇒スマホを持っている子といない子の成績を比べるとかなりの影響が出ている
- ・今後も県教委・市町村教委、学校、PTAと連携してこの問題に取り組んでいきたい
- ・提案のあった、“節目節目での研修”の取り組みについても、前向きに検討していく

〈感想〉初めての懇談会参加でしたが、小中学校時代の取り組みが、高校以降の人生に大きく影響するということに改めて感じさせられる会となりました。後日、本会で提案した“ネットモラル研修のカリキュラム化”が現在、県教委と県P連との間で具体的に検討されていると聞き、大変嬉しく思いました。一刻も早く、このプログラムが実現されることを希望します。

文責 県PTA連合会理事 副母親委員長 大崎 理恵

親子で読書 深める絆

～本を読む子は かならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

がっちりタイムとほほえみ活動

飯豊町立第一小学校PTA

母親委員長 菅野 東世

第一小学校では、七月第一土曜日にPTA主催の「ほほえみ活動・七夕まつり」の取り組みをしています。その中で母親委員が中心となり紙芝居の読み聞かせをしています。七夕に関する話など三つをメンバーが選択し、役割を分担し、読み方を工夫しながら楽しい時間をすごしています。大きな笹竹に願いを込めた短冊や飾りも全て子どもたちの手作りです。天体観測も行い、七夕を知る活動をしています。

また「がっちりタイム」と名付けたノーマメディア活動が広まっており子どもたち一人ひとりが意識して取り組んでいます。家庭とも連携し、ゲームを持って遊びに行かない約束を徹底しています。

町内の各小学校でも親子読書を通して「アウトメディア」の推進として「親子で読書に親しむ」機会を目的とした活動を行うなど、親と子の共通の話題を提供し合い会話作りの手立てにもなっています。

子どもと向き合い、愛情を持って

接することによって子どもも安心し、ふれ合いが生まれ、絆の深まる時間を持つことができるのではないかと思います。期間の時だけでなく、1年を通して親子で過ごす会話のある生活を楽しんでもらいたいと思います。

家族読書とノーマメディア

高畠町立屋代小学校PTA会長

佐竹 修

本校は、「浜田広介先生」の生誕の地に有り、出身校でもあります。この環境を活かし学校でも家庭でも読書活動を盛んに行っております。この事から平成二十三年度子ども読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰を受賞致しました。

PTAの基本方針の中に「ノーマレブタイム」を取り入れた活動があります。この活動は「ノーマレブデー」のように一日に限定せず、毎日、家庭で決めた時間帯にテレビやゲームを止めて「家族読書」に取り組むものです。家族みんなで取り組むことにより家族のコミュニケーションを図り、色々な本を家族で共有し読書に興味を持ってもらうと共に、「ノーマメディア」に対する意識を持たせる事をめあてに取り組んでおります。

その他にも「ほのぼの塾実行委員会」という専門部の活動があります。

年五回、実行委員会を中心に保護者や地域の方々のボランティアで、朝の十五分間、各学年に読み聞かせをしてもらっております。保護者や地域の方々に読んで頂くことで、子どもたちも興味津々で聞いています。また、実行委員会で年一回、講師を招聘して読書や読み聞かせに関する講演を保護者や地域の方々を対象に行い、地域や家族で読書に取り組む活動を行っております。

このような取り組みを継続して、ノーマメディア対策と「本を読む楽しさ」を育てていきたいと思っています。忙しい毎日ではありますが、心にゆとりを持ち、本に親しんでほしいと願っています。

親子読書

～思いをこめて 願いをこめて～

山形市立千歳小学校PTA

軽部 ゆり

「一番のお気に入りの場所はどこですか？」

これは、今年度のPTA会報誌に掲載するため、全校児童とその保護者対象に行われたアンケートです。第一位は、子どもも親も「図書室」と答えた人が最も多く、日頃から図

書室を大活用している子どもたちのみならず、図書室や本への深い親しみや関心を持つ親が多いことも、この集計結果から伺えます。

ではここで、親も子も読書への関心を高めるきっかけとなっている三つの取り組みについて報告します。

一つめは、夏休みの課題の一つに親子読書を取り入れていることです。親子で読みたい本や伝えたい一冊を共有し、夏休み明けは沢山の感想が寄せられます。

二つめは、学校だよりの中で、折りにふれ読書の大切さを家庭に伝えてくれていることも大きな効果につながっています。

おたよりを読む度、ゲームやテレビでは育たない、人としての心の成長や学習力の向上が期待される読書や読み聞かせの大切さが伝わります。本に親しめる環境作りをすることは親の大切な役割であることを再認識させられます。

三つめは、就学時健診の場を活用し、読み聞かせボランティアが保護者に絵本の魅力や読み聞かせの大切さをお話しています。

以上のような取り組みを通し、かけがえない親子の時間を、今を、見つめていければ、と思います。

読書を通じた親子ふれ合い運動

天童市立山口小学校

二学年担任 高橋 聡美

本校PTAでは、親子ふれ合い運動を展開しています。取り組みの一つとして各家庭でのアウトメディアと読み聞かせを行い、それぞれの学年で目標を立てて学年の実態にあった活動を推進しております。その中で、二年生の親子読書について紹介します。

二年生のPTAでは、四月の保護者会で土曜日と日曜日を親子読書の日と定め、各家庭で読み聞かせを行っています。各家庭で工夫し、読書を通して親子のふれ合いを深めるのが目的です。具体的な内容は、次の通りです。

- ① 学校から借りてきた絵本を読む
であげる。
 - ② 本人が借りてきた本を母親と兄弟に読んで聞かせる。
 - ③ 休みの日の日中は読書の時間にして読んでいる。
 - ④ 毎晩寝る前に読み聞かせをしている。
- 実際に取り組んだ保護者からは、「下の子どもも一緒に楽しく聞くようになった。」「デイズニーの絵本がお気に入りになって、週末を楽しみ

にしている。」「読み出すと時間を忘れて夢中になって読書している日もある。」「などの感想が寄せられました。

本校では図書館のリニューアルを行い、読書教育の充実に努めてきました。これからは、家庭と一緒に読んで欲しいリストなどを紹介して親子読書を推進していきたいと思っています。

進化する「親子読書」

遊佐町立遊佐小学校PTA会長

高橋 英勝

遊佐小学校は、全校児童二〇四名で町内では最も児童数が多い学校です。昨年度、読書活動推進校として「文部科学大臣表彰」を戴き、PTAでも読書に対する機運が高まってきました。今年度の活動の一端を紹介させて頂きます。

本校の特色ある読書活動として、「お月見読書会」があります。今年度は、皆既月食の十月八日に行いました。夜、親子でブックランド(図書室)に集まり、卒業生の奏でるバイオリンをBGMにしての地域の方々による読み聞かせや子どもたちによる読み聞かせが行われました。何といっても特記すべきことは、今回、総務部のお父さん方による「お

やじ読み聞かせ隊」がデビューしたことです。五人のお父さん方が一人一役で登場人物になり切り、見事に紙芝居を読んでもくれました。満場の拍手にお父さん方も満面の笑顔を浮かべていました。現在、遊佐小では「おやじ読み聞かせ隊」が各学年PTAのお父さん方へ広がりを見せています。次年度以降のPTA活動の目玉にしていきたいと考えています。

親子読書は全学年のPTA活動に位置付け取組んでいます。今年度は、子どもが親に読み聞かせする学年、お婆ちゃんをゲストに迎え、地域の昔話を聞く学年、夜、町図書館を解放してもらい、ゆったり親子で読み合いをした学年等、バラエティーに富んだ活動が展開されました。これからも「読書」を核としたPTA活動を推進していきたいと思っています。



家庭・学校・地域社会をつなぐPTA活動

村山市立葉山中学校 PTA会長 増川 喜与志

一、はじめに

葉山中学校は、十一年前に市内の六つあった中学校が二校に統合されて出来た学校のうちの二校です。

葉山中学区には、ジュンサイ沼や、山形ガールズ農場、クアハウス基点などもあり「眺望景観」といえるほど、間に遮るものは何もなく、山形盆地が一望できます。

葉山中の葉山は、市の西部に聳える標高一四六二mの葉山に由来します。

学校の概要ですが、生徒数は、今年度二百四名、教職員数二十六名、一年は二クラス、二、三年は三クラス、男子百十二名・女子九十二名の編成です。

全国でも珍しい、教科ごとに教室を移動する「教科教室型」の校舎です。

二、特色あるPTA活動

葉山の『葉』を基調とした環境活動と葉山中PTAの活動

(1) 葉山の葉を基調としたグリーン化の取り組み

葉山中の校名の由来となっている葉山は、地域のシンボルであり、自然の豊かさが、地域の誇りでもあります。葉山の葉のイメージは「緑」であることから、環境配慮、つまり「グリーン化」は、非常に求心力を持ったテーマであると理解しています。

具体的には、一つ目が、年二回の地域全体での資源回収事業。

二つ目は、地域全体のグリーンカーテン化事業。

三つ目が、葉山中校舎でのシンボルカーテンづくり。

四つ目ですが、昨年度は、山形新聞社の「あしたねプロジェクト」と連携協力するなど、民間のグリーン化関係の活動とも連携し、事業を展開していることです。

特に二番目の活動は、地域内の四つの小学校とも連携し、葉山中学区内の全家庭にゴーヤとアサガオの種を配布し、地域全体で「グリーンカーテン化」を推進する事業です。

(2) 葉山の四季を謳う校歌
「学校と保護者、あるいは地域

をつなぐ」ということから、「うたの力」に着目し、校歌を保護者も歌おう、そして、校歌を地域の歌に、という活動を展開しています。本校の校歌は、村山市出身の指揮者・村川千秋さんの作曲で、葉山の四季を謳っている校歌となっています。作詞者は、地域出身の画家・遠藤マサさんです。

(3) 「学区内PTAの連携協力」による地域の教育力の向上

小中学校PTAの連携による一体性・連続性の醸成ということを目的としておりますが、その内容を三つにまとめてみました。

一つ目は、葉山中へのスムーズな移行のための交流活動の企画運営です。

「葉山中学校区五校協議会」という組織をつくり、PTA・育成会主体で、実行委員会を組織し、十二月に交流事業を行っております。

二つ目ですが、生活指導に関する取り組みです。

葉山中では、携帯端末事故を未然に防止するということから、「携帯持たせない主義」をPTAの運動として行っております。今後は、なるべく携帯を持たせないということ

は継続するものの、「やむを得ず持ってしまうこと」を前提とした「情報教育」、「情報リテラシー」について、生徒のみならず保護者の学習会開催などによる意識の啓発も必要と考えています。

三つ目ですが、山形県で「運動」として取り組んでいる「子育て応援団」に、五校協議会の小中学校が同時加盟していることです。PTAとしての加入は、葉山中が初めてのようですが、学区内の小学校全校が同時加盟というのも県内初のようにです。

三、成果と今後の方向性（まとめ）

成果としては、葉山中の葉から出した「グリーン化」の取り組みが、PTA活動の一つの大きな求心力を持つ柱となり、それが本校PTA活動の特徴として機能していることです。

今後は、このグリーン化の取り組みをさらに発展深化させるとともに、次の十年に向けて、PTA活動の新たな求心力のあるテーマを見出し、いけるようにしていかなければならないと考えています。

また、地域の人口が減少傾向にある中で、地域活性化や地域づくりを、PTA活動と別々にやるのではなく、PTA活動が即ち地域づくり活動になるのだ、という意識をより広めていきたいと考えています。

その意味で、他の学校のPTAでも、まだまだ優れた取り組みをやられておられると思いますので、それらに大いに学ばせていただければと考えております。

一、はじめに

山形県教育委員会、学校教育関係者のご支援により優良PTA文部科学大臣表彰を受賞することができましたことに心より感謝とお礼を申し上げます。

東郷小PTA活動方針、「みんなで学び・楽しく参加できるPTA」をテーマに位置づけ、東郷小学校の教育目標「優しく、賢く、逞しい、東郷っ子」をPTA活動へ受け入れながら、学校と地域の諸先輩方との活動を通じた交流や、学校と保護者とのPTA・学校事業を通じたつながりがお互いの信頼関係を深めているものと考えます。

二、特色のある取り組みについて

- (1) 庄内風づくり・風あげ〔伝統継承〕
- (2) 庄内風に親しみ、地域の良さを知らしめることを目的とした活動も、五十

年以上続いています。

- (3) 風づくりは、庄内風保存会、老人クラブ皆さんの指導を頂き、PTA会員も作り方を学びながら「子どもたちと一緒に」に風を完成させています。

- (4) 風上げは、風上げのコツを親子一緒に学びながら楽しんでいます。

- (2) 化粧まわしづくり・土俵入り

〔伝統継承〕

- (1) 化粧まわしづくりは三十年以上続く伝統事業で、一年生が身に付ける化粧まわしは、個性豊かなものが多く校内すもう大会の楽しみのひとつとなっています。

- (2) PTAが制作講習会をするなど会員同士「先輩から後輩」へ伝統継承が進められています。

- (3) 子どもの命を守る活動〔地域連携〕

- (1) PTA生活部を中心に危険箇所マップの作成見直しを進め、各町内会へ配布を進めながら、子どもたちの安全に配慮した取り組みを願っています。

優良PTA文部科学大臣表彰

地域のぬくもりに笑顔輝く東郷っ子
「みんなで学び楽しく参加できるPTA活動を…」

三川町立東郷小学校

PTA会長

大 瀧

尚

- (2) 防犯ブザーの点検は、防犯対策の意識を深めるために実施しています。

- (3) 学年PTAごとの交通安全教室、自転車教室では「自分の命を守る活動」として、交通ルールやヘルメットの着用推進を確認することができました。

- (4) 地域の学校を守る活動〔地域連携〕

- (1) 本校舎は木造で、毎年風雪の影響から塗装がはがれることから、東郷小PTA「おやじ会」が中心となつて新年度に向けて毎年一回の塗装作業を行っています。

- (2) おらほの学校は、自分たちの手で守る意識が根付き、校舎越年と共に十回目を迎えました。

- (3) 塗装作業の他に校舎内の清掃（モップ掛け・ホコリ取り）や屋外への新規参入として排水路の清掃など学校保全隊としての活動が「おやじ会の伝統」として受け継がれています。

- (5) 教材リサイクル活動の推進

〔地域連携〕

- (1) 母親委員会文化部がリサイクル活動をPTA会員に呼びかけて回収。

- (2) 主なものとし算数セット、おけいこセット、運動着など。

- (3) リサイクル活動の推進により、保護者の負担軽減だけでなく「物を大切にする意識」が親にも子どもにも芽生えている成果があります。

- (6) PTA会員の実情と改善策〔その他〕

- (1) PTA組織運営ではPTA会員の負担軽減を目指し、組織再編を実施。
- (2) 連絡体制の強化では、「安心メール」によりPTA活動の連絡送信に活用されスムーズな情報伝達に成果が高められました。

三、成果と今後の方向性

本PTA活動は、「地域に支えられ」「地域と一体化された」活動であります。新校舎に建て替える時も、東郷小学校は木造校舎で地域住民の方々や歴代PTA関係者からも強く要望され、現在の校舎が完成されました。地域の学校としてみんなが思い、「地域の宝」である子どもたちが通う学校を「ぬくもりのある校舎」に仕上げたいと熱意が込められています。

私たち東郷小PTAは、地域と共に人と人とのふれあいを大切にしながら、「やさしく」「賢く」「たくましい」子どもたちの育成に向けて、PTA会員が「みんなで学び楽しく参加できるPTA」が大切であると思います。地域の伝統文化継承を通じて、「地域風土から学ぶ」「地域の先輩から学ぶ」ことにより、PTA会員一人ひとりの知識を高め、健やかな子どもの成長のために、大人も笑顔輝く人でありたいものです。

一 はじめに

本校の学区である高畠町糠野目地区は、JR高畠駅や主要幹線道路に面し、その利便性から、他地区からの転入者も増えている。児童数は三百六十七名で、今後も当面は現在の規模を維持しながら推移すると見られる。

地域のために汗を流して下さる方が多い「地域力の高さ」に支えられ、子どもたちは元気に生活している。

二 特色ある取り組みについて

(1) 「前年」とらわれない運営

①「地区懇談会」開催方法の変更
例年、学区が同じ高畠四中PTAとの合同事業として、学区内23地区でそれぞれ保護者と当該地区担当の教職員が懇談会を行っていた。懇談会への参加率低下や、話題の固定化、また、懇談の中で課題が出されても解決に繋がりがづらい事などが毎年のように指摘されていた。

新たな実施方法では、参加できない保護者からも意見を収集するため、事前に全保護者にアンケートを実施し、主に子どもの安全というテーマで広く意見を収集した。その意見をまず地区ごとに整理し、特に優先度の高い課題については、学区内の各種団体長（区長会・防犯協会等）との検討の機会を持ち、これまで地区内の話題で終わっていた課題を、学

区全体の課題として共有することで、解決に向け実効性を高める事ができた。

②役員選出方法の変更

クラスの人数差による役員率の過度な不均衡を是正した他、他薦を止め、基本的には本人の意思を尊重し、立候補を募る形とした。

そうした柔軟な役員選出を可能にするため、PTA規約の改定も行った。

(2) 「糠野目小学校PTAブログ」の

日本PTA全国協議会会長表彰

子どもと大人の「学び」の機会として

高畠町立糠野目小学校PTA会長 清澤 穰

運営

各PTA事業はもとより、事務局活動や連合組織の活動など、PTA全般に亘る様々な事柄や、役員として関わりながら感じる思いなどを発信している。

同じ保護者の一人としての目線で、様々な情報を分かりやすく発信することで、PTA全体の動きを追体験でき、自らもそのコミュニティの一員だという共感性を醸成したい。

(3) 「弁当の日」の実践

平成二十三年度の研修委員会事業で、「子どもが作る『弁当の日』」の提唱者である竹下和男先生による講演会を実施して以来、当校でも子どもたちが自分で弁当を作る「弁当の日」を実践している。

自分で弁当を作る（台所に立つ）ことで、家族への感謝や思いやりといった心の成長を促すとともに、褒められたり周りが喜んだりすることで自己肯定感を高める事にも繋がっている。

実践には各家庭の協力が不可欠であり、PTAとしてもこの取組みを支援するため、平成二十四年度、平成二十五年度も引き続き竹下和男先生の講演会を実施し、その実践による効果を広く保護者へ伝える活動を行った。

弁当の日の実践は、子どもが一人前になるための力を育む「きっかけ」が家庭の中にこそ存在することを感じかせ、また、ともすればその成長の機会を見逃がってしまったたり、

子どもの成長には逆効果な対応をしたりという事がないか等、子どもとの向き合い方について、保護者自身も考えさせられる取組みとなっている。

三 成果と今後の方向性

(1) 連携のための枠組みとして

前述の「地区懇談会」で提起された子どもの安全に関する課題への対応の一つとして、地域との連携により「子ども見守り隊」が発足し、登下校中の小中学生を地域の手で見守る活動が始まった。

(2) 組織のあり方について

「共感できるコミュニケーション」として多くの会員が関わる事で、ゆるやかな繋がりを広く形成していきたい。まずは参加し、その「価値」を感じてもらえるよう、妥当性や実効性を念頭に置いた柔軟な組織運営と、活動内容を広く分かり易く発信していく事を、今後も継続する。

(3) 家庭教育の推進

今年度より「家庭の日」の取組みを推進している。例えばスポーツ、料理など、親子で取組む内容を決め、週一回程度実践する事とし、取組み事例の紹介や、子どもの成長・変容などの実践結果の紹介をする。

子どもとの関わりを通じ、子どもとの向き合い方を再考する事で、大人自身の学びの機会となる事も期待したい。

この度、平成二十六年度「日本PTA全国協議会会長表彰」を受賞いたしましたして、その礎を築いてくださった諸先輩方、並びに地域の皆様方に感謝申し上げます。これを励みに、PTA会員、皆、協力のもと、子どもたちのため、PTA活動を推進してまいります。

一 はじめに

本学区は河北町の北端に位置し、東に最上川、南に古佐川、地区内のほぼ中央を法師川が流れる準農村地帯にある。最上三十三観音、第十八番札所岩木観音が近くにあり、世帯数は約五百戸、人口約千九百名で、現在児童数八十八名、保護者六十二名の小規模校である。

二 特色ある取組み

学校と保護者が、子どもを育てる上での課題を共有し、豊かな人間性を備えた子どもの育成のため、学校・家庭・地域が連携した教育活動を展開している。

(1) 会員全員で協力し合う取組み

「PTA会員全員で協力し活動していく」という基本方針のもと、総会、学校委員会、常任委員会を開催し、

役員の選出は、全員体制で活動することを前提に、保護者全員が、主体的に組織づくりに参画している。学年PTAでは、全体会の話題を受けての、親子学年行事の実施や運動会等の学校行事への協力を行っている。また各専門部でも、ニーズに応じて独自の事業を実施し、地域も協力しての資源回収、親子清掃、夏休みのプール監視（事前に心肺蘇生法講習会を実施）を行っている。

競技大会での協力等を行っている。また、稲作学習や宿泊学習での補助も行っている。

③「親・子スキーを楽しむ会」

PTA主催により、企画・運営を行い、雪国ならではのスポーツを子どもたちに体験させることを目的とし、各班に指導者、引率者がついて指導を行っている。自由参加ではあるが、参加率は七割近くに達している。

日本PTA全国協議会会長表彰

『全員で協力して活動していくPTAをめざして』

河北町立北谷地小学校父母と教師の会会長 木嶋 正彦

(2) 学校での学習支援に関する取組み

①読み聞かせサークル「オープンセサミ」

母親委員と地域の方々の協力を得て、毎週木曜日の朝、十五分程、読み聞かせ活動を行っている。地域の方々の参加も増え、地域を巻き込んだ活動になってきている。

②各種行事に関する支援

運動会の計画と準備、運営協力、校内マラソン記録会、町陸上、水泳

(3) 家庭教育支援の取組み

○PTA研修会の開催

メディア依存の危険性の認識、及び、メディアとの正しい接し方を学ぶ親子アウトメディア教室・教育講演会を実施し、その後、テレビゲームなどの使用頻度を減らすためのメディアチェックカードの活用を行っている。また、その他の各種講演会を実施し、保護者、子どもの研修に努めている。

(4) 地域における健全育成活動

PTAが中心になって、あいさつ運動を実施し、登校時に街頭に立ち、登校の様子を観察し、声をかけている。また、危険箇所やこども一一〇番連絡所の場所が、掲載された安全第一マップを作成し、各家庭で活用している。

三 成果と今後の方向性

「PTA会員全員で協力し活動していく」という基本方針のもと、各専門部と母親委員会及び各学年PTAが、役員を中心に、それぞれの課題に沿った活動を展開し、心豊かでたくましい児童の育成、環境づくりに成果をあげている。

今後は、親子・教師とのコミュニケーションを深めながら、あいさつ運動の推進、生活リズムの適正化をめざした

メディアの正しい活用力の育成、家庭学習の習慣化などの活動を進めていきたい。



第46回東北ブロックPTA研究大会盛岡大会に参加して



山形県PTA連合会
理事長

高橋 淳一郎

九月六、七日と、盛岡市各所において、「希望郷いわてで語り合おう！未来を創造する子どもたちのゆめ」を「こころ」を、そして「つながり」を大会主題として東北ブロックPTA研究大会盛岡大会が開催されました。

一日目、午後から各会場に分かれての分科会でした。小学校のPTA会長を務めている為、第四分科会の「家庭と小学生教育」に参加しました。始めに大阪大学大学院の小野田正利教授より、「「いちゃもん（無理難題要求）を超えて」保護者と学校の新たないい関係づくりについて」の基調講演を頂きました。正直、吉本興業のお笑いを見に来たと思わせる、大変ユニークな話し方でしたが、現代の問題点や対応等、うなず

ける内容ばかりでした。印象強かったのは、「子どもからのメッセージ」でした。子どもは、困った時、助けてもらいたい時は、何らかのシグナルを出している。それをいち早く気付いてあげる事が親、そして教師の責任であり、使命であるという事でした。いじめが起きたら、何故このような事になったのか。原因を聞いてあげる事の大切さを、しみじみ感じた講演でした。

その後のパネルディスカッションでは青森、岩手、宮城の三名の方からPTA活動の実践発表がありました。学校とPTAが協力し合い長期間継続して行っている事業と、今後の継続課題の事例、学校が合併により広域になり過ぎ、委員会を開催するにも大変になっている事例、地域との連携したPTA活動と、PTA活動はボランティアで行っているとの事例と、衝撃的な発表ばかりでした。

二日目、全大会が行われ、PTAに御尽力頂いた方々が表彰を受けられました。おめでとうございました。また、「子どもの心と家族の愛」という演題でチベットの音楽家のバイマーンジン氏より心が温まる記念講演を頂き、今回の東北ブロックPTA研究大会盛岡大会は、大会主題通りの素晴らしい内容の東北ブロック大会でした。

第62回日本PTA全国研究大会長崎大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

鈴木 渉

八月二十二・二十三日の二日間、異国情緒豊かな長崎県に於いて、第六十二回日本PTA全国研究大会長崎大会が開催されました。

今回は、大会日程を初日午後開始とし、長崎市、佐世保市、諫早市、島原市、大村市と五市の十会場で分科会が開催されました。移動距離やアクセスを重視した時短スケジュールに於いて実施されました。異国情緒豊かな長崎県は平地が少ない土地で有名ですが、都市間の高速道路、歴史ある路面電車など、移動には不便を感じません。第四分科会基調講演はテレビショッピングでおなじみの、(株)ジャパネットたかた代表取締役役の高田明氏の「見たい知りたい 参加したい つなぐ広報考えたい」との演題で、PTAの広報活動への提言をいただきました。

語り口調がとても特徴的です。人に物事を伝えるには「宣言する・行動する・情熱を傾ける」ことが大切であると話されました。まさに情熱の塊のような人でした。

二日目の記念講演は、高野優氏。育児漫画家で、子育てに関わるNHK教育番組の司会もしている方で、マンガを描きながら話をするという独特なスタイルで手元のイラストが常時スクリーンに描き出されるという画期的なもの。講演内容がイメージしやすく、会場はすぐに笑いと涙にあふれました。「子育てとともに親が育つ。楽しまなくっちゃもったいない。」というテーマのもと、ご自身の育児エピソードを話していただきました。子どもが生まれてきた喜び、子どもが育つ幸せをもっともっと感じなければいけないと思いました。どこの学校でも、PTAの役員になるのはとかく敬遠されがちですが、子育ての喜び・幸せを共有できる場ととらえ、多くの方が進んで参加できる土壌づくりをもう一度考えなければならぬと実感しました。

最後に、山形県から一緒に行ったメンバーと楽しいひと時を過ごしながらも、郡市Pでの取り組みや成果、そして課題などをお聞きできたことも非常にありがたいことでした。その後のPTA活動にも弾みがついた二日間でもありました。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて入賞しました。おめでとうございます。(敬称略)

平成26年度 文部科学大臣表彰

村山市立葉山中学校PTA

三川町立東郷小学校PTA

平成26年度 日本PTA会長表彰

〈団体表彰〉

高島町立糠野目小学校PTA

河北町立北谷地小学校父母と教師の会

〈個人表彰〉

武田 宣行 (前県PTA連副会長)

伊藤 秀紀 (前県PTA連副会長)

遠藤 正明 (前県PTA連副会長)

鈴木 幹雄 (前県PTA連事務局長)

平成26年度 東北PTA連絡協議会表彰

〈団体表彰〉

鮭川村立鮭川小学校PTA

酒田市立第四中学校PTA

〈感謝状〉

鈴木 幹雄 (前山形県PTA連合会事務局長)

〈表彰状〉平成25年度理事・監事

高橋 哲史 (上山市PTA・上南中)

佐藤 光之 (天童・東村山地区PTA・山辺小)

大沼 一雄 (西村山PTA・陵東中)

氏井 由隆 (北村山PTA・楯岡中)

齋藤 芳明 (米沢市PTA・南原中)

細越 順一 (東置賜地区PTA・高島四中)

鶴巻 学 (東田川郡PTA・立川中)

佐藤 敬徳 (酒田市PTA・琢成小)

今野 徹 (飽海郡遊佐町PTA・遊佐中)

高橋 裕美 (山形市PTA・山九中)

平成26年度 優良PTA山形県教育委員会表彰団体

村山市立葉山中学校PTA

河北町立北谷地小学校父母と教師の会

大江町立本郷東小学校PTA

寒河江市立陵西中学校父母と教師の会

鮭川村立鮭川小学校PTA

高島町立糠野目小学校PTA

米沢市立六郷小学校PTA

南陽市立沖郷小学校PTA

酒田市立第四中学校PTA

三川町立東郷小学校PTA

酒田市立西荒瀬小学校PTA

平成26年度 山形県PTA連合会会長表彰

〈感謝状〉平成25年度理事・監事

武田 宣行 (前県PTA連副会長)

長沼 建 (前県PTA連副会長)

遠藤 正明 (前県PTA連副会長)

伊藤 秀紀 (前県PTA連副会長)

高橋 哲史 (上山市PTA・上南中)

佐藤 光之 (天童東村山地区PTA・山辺小)

大沼 一雄 (西村山PTA・陵東中)

氏井 由隆 (北村山PTA・楯岡中)

齋藤 芳明 (米沢市PTA・南原中)

細越 順一 (東置賜地区PTA・高島四中)

鶴巻 学 (東田川郡PTA・立川中)

佐藤 敬徳 (酒田市PTA・琢成小)

今野 徹 (飽海郡遊佐町PTA・遊佐中)

佐藤 俊一 (中学校代表)

高橋 裕美 (母親委員長)

佐竹 直子 (副母親委員長)

高橋 功一 (監事)

鈴木 幹雄 (事務局長)

〈表彰状〉郡・市PTA連合会より推薦

日野 哲也 (山形市PTA) 門田 光弘 (酒田市PTA)

青山 登 (山形市PTA) 秋葉富美子 (酒田市PTA)

大貫 淳 (山形市PTA) 遠田 勝則 (飽海郡遊佐町PTA)

浦山 和宏 (山形市PTA) 佐藤 美佳 (飽海郡遊佐町PTA)

菅原 亮 (北村山PTA) 高柳 茂治 (天童・東村山地区PTA)

市川 泰博 (最上地区PTA) 渡邊 優 (天童・東村山地区PTA)

平成26年度 第35回全国小中学校PTA広報紙コンクール

〈佳作〉

酒田市立松原小学校PTA (まつばら)

酒田市立第四中学校PTA (雄飛)

〈日本PTA奨励賞〉

村山市立戸沢小学校PTA (竹の子)

山形市立金井小学校PTA (ほなみ)

最上町立大堀小学校PTA (清流)

酒田市立浜田小学校PTA (HAMADA)

鶴岡市立朝陽第六小学校PTA (緑のつばさ)

米沢市立第四中学校教育振興会 (城北だより)

真室川町立真室川中学校PTA (あきやま)

山形市立第十中学校PTA (山十中PTA会報)

〈山形県PTA会長賞〉

東根市立東根小学校PTA (けやきの窓)

新庄市立沼田小学校PTA (ぬまた)

新庄市立北辰小学校PTA (けやき)

鶴岡市立大泉小学校PTA (穂なみ)

鶴岡市立櫛引東小学校PTA (くろあざみ)

酒田市立新堀小学校PTA (止善 (しぜん))

遊佐町立吹浦小学校PTA (ふすま)

村山市立葉山中学校PTA (はやま)

米沢市立南原中学校父母と教師の会 (こぶし)

鶴岡市立鶴岡第二中学校PTA (双鶴 (そうかく))

平成25年度 日本PTA国際交流・国内研修に参加して

「充実の四日間」

村山市立楯岡中学校

板垣 風馬

今回の国際交流・国内研修は、私にとって、とてもよい経験になりました。

私がこの研修に参加しようと思ったのは、英語になり自信があり、国際交流をとおして英語力を上達させたかったからです。

しかし、この研修は国内研修でもありました。全国から中学生が集まってくるのです。会場であるホテルへ行くバスの中で、僕の周りには知らない人ばかり。山形県から来たのは私だけのようにでした。人に話しかけられることもなく、話しかける勇氣ありませんでした。周りの人は初対面の人と楽しそうに会話していて、私にはそれが信じられませんでした。

私に友達ができたのは、

開講式のときでした。最初に話しかけてくれたのは、同じ班で福岡県出身の鐘天鴻君でした。彼をはじめとして、同じ班の人とも話せるようになりました。

この開講式で、リーダーの北見さんが、合い言葉を教えてくださいました。それは、「チャレンジ」です。右手を挙げ、「チャレンジ！」というかけ声と共に、ポーズをとるのです。この言葉は私にチャレンジ精神を与えてくれました。

その日の夕食で、私はショックを受けました。同じ班の人はほとんど、海外に行ったことがあるのです。特に高橋さんは、フィリピンに留学したことがあるそうで、夕食でも大活躍でした。インドネシアから来た留学生のディマスさんと、ペラの英語で会話を繰り返し聞いていました。これが、全国レベルか、と驚愕でした。私は井の中の蛙だったのでありました。

二日目からの活動は、班での発表がメインになりました。「ようこそ日本」の活動では、留学生の人達に日本の文化を紹介しました。私たち

の班は、日本の方言と敬語について紹介しました。方言は、関西弁を紹介しましたが、山形弁を紹介しても良かったかな、と今は思っています。他の班の発表は、劇やクイズ、歌もあり、見ていて楽しめる内容でした。

三日目は、「未来を語ろう」の発表に向け、班でそれぞれの人生を語り合いました。みんな将来の夢や進路が決まっています。まだ将来の夢がない私にとっては、この活動が自分を見直すきっかけになりました。

活動は、順調に進んでいたのですが、その夜、私は体調を崩してしまいました。その時留学生のディマスさんは、私のことをとても心配してくれました。彼の将来の夢はインドネシアの大統領になることだそうで、彼の優しさはインドネシアをきつと良い国にしてくれるでしょう。

最終日、体調も良くなり、無事に発表を終え、研修から帰ることができました。山あり谷ありの四日間でしたが、とても充実した四日間でもありました。

とてもよい経験になりました。

秋田県視察「秋田市立勝平小・中学校を視察して」



山形県PTA連合会
理事
佐藤 正光

九月二十五日に山形県PTA連合会として学力日本一を誇る秋田県内の小中学校の教育活動状況を研修しました。

当日は、午前中に勝平小学校を、午後からは勝平中学校を訪問し、授業風景の視察と学校の経営方針等の説明を受け最後に両校の保護者の方々と意見交換を行いました。

研修のなかで秋田県として取り組んでいる家庭学習方法に話題が盛り上がり、小学校では全員が学年×十分+十分つまり一年生なら二十十分を毎日自分の意思で勉強する内容を決め勉強が終わったら保護者が内容を確認し、学校へ提出し先生がコメント記入後返却しているとのことでした。

また、中学生になっても小学校で身につけた家庭学習は習慣化しており保護者も当たり前のように入念に確認しているとのことでした。山形県内でも同様方法を実施しているところはあると思いますが、子どもが自分の意思で勉強する気持ちを持つことと家庭と学校の連携の重要性に触れた有意義な研修でありました。

仙台市PTAフェスティバル



山形県PTA連合会
副会長

荒井 寛

十一月九日(日) 仙台市役所前市民広場において開催された仙台市PTA協議会主催の第十一回仙台市PTAフェスティバルに参加してきました。今回は「笑顔が集う！心が繋がる！今日のスマイル明日への順風」というテーマのもと、出店・展示ブース八十二、来場者三万六千名という事で、会場内は多くの人たちで埋め尽くされ大いに賑わいました。

山形からは昨年同様「きなこ餅」を五十kg、約五百人分振る舞い来場者に味わっていただきました。昨年来のきなこ餅ファンの方々も来られ、ブース前には行列ができるほどの人気でありました。他にも札幌、千葉、名古屋、京都、神戸、福岡のPTA団体が応援に駆け付け、それぞれの地域特有の食べ物や民芸品を提供していました。

またメインステージでは吹奏楽から和太鼓、ダンス、そ

してバンドなど元気あふれる子どもたちや大人たちの発表に大きな拍手が沸いておりました。さらに特殊車両展示エリアにおける高所作業車等の稼働や、展示エリアにおける三行詩コンクール、絵画展、そして市内百九十一校の小中学校におけるPTA活動の紹介など見どころが沢山ありました。特にパネル展示においては東日本大震災の苦難を乗り越え、力強く復興に向けての歩みを進めている姿を映し出されていたのが印象的でありました。

その他、昨今問題視されているゲーム機やスマートフォンに伴うネット犯罪や、そこから波及するいじめ問題などを防止するため、安心ネットづくり促進協議会の会員企業がブースを出展していました。スマホやゲーム利用の注意点、家庭でのルールづくりの必要性など、タブレットやスマートフォンを用いた実機体験のブースに多くの人が関心を示していました。

長年に渡り市民の方々から楽しんでいただいているフェスティバルであり、特にここ最近では震災後における仙台の復興のシンボルとして、たくさん子どもたちに勇気と希望、そして元気を与えられるような役割を果たしていきたいという主催者の想いが込められております。隣県の山形としてはこれからも継続して支援をしていかなければならないと感じる次第であります。

山形県PTA連合会安全互助会から

山形県PTA連合会安全互助会運営にあたり、関係各位・保護者の皆様からのご支援ご協力に感謝申し上げます

平成27年度から③コースを新設しました

※下表のように賠償事故が増加傾向にあります。特に「人身事故」での治療費請求が賠償補償額50万円を超える事故が複数発生しています。その対策として賠償補償額1000万円の3コースの追加が総会で承認され、各学校PTAにご案内を送付いたしました。是非ご検討下さい。

自転車に乗るときはヘルメットをかぶりましょう

※傷害事故1171件のうち、約1割が自転車に関わる事故です。ヘルメットを着用していたために大けがを免れた事例があります。ヘルメット着用は努力義務です。子どもたちの安全のため保護者の方のご協力をお願いいたします。

事故の未然防止が一番大切です

※登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し事故防止にご協力ください

・・・・・・保険金支払い状況・・・・・・

(単位千円)

傷害事故支払状況				
	件数	児童・生徒	件数	PTA傷害
平成23年度	1,496	13,961	89	3,715
平成24年度	1,419	12,713	59	3,342
平成25年度	1,426	14,638	76	3,354
平成26年度(1月末)	1,171	10,863	69	2,228

賠償事故支払状況		
	件数	金額
平成23年度	60	3,453
平成24年度	66	3,767
平成25年度(1月末)	77	5,893
平成26年度(1月末)	38	2,386

日常生活での不慮の事故に備え安全互助会への加入を今後ともよろしくお願いいたします。

第67回山形県PTA研修大会 米沢大会案内

山形県PTA連合会副会長 齋藤 敏博



平成二十七年
度
の
山
形
県
P
T
A
研
修
大
会
は、開
催
地
を
米
沢
市
と
し、来
る
平
成
二
十
七
年
十
月
十
七
日
(土)に米沢市PTA連合会が主管となり、開催される事となりました。本大会には、県内各地より約九〇〇名の方の参加が予定されており、私たち米沢市PTA連合会一同は、『おもしろな(御賞詞名)のおもてなし』の心にて皆様のお越しをお待ちしたいと考えております。

大会主題は『ふれ愛 つたえ愛 たしかめ愛 家庭と地域と学校と』としました。家庭・地域・学校がより良いコミュニケーションと連携を取っていく為にどのような取り組みがなされているか、メディア社会の中でどのようにして子どもたちを守っていくべきなのか等多様な課題に対して、積極的なディスカッションが交わされる事が期待されます。

午前の分科会では、主題へと繋がる五つのテーマが設定されております。

☆活動が活性化するPTA組織と運営
☆情報メディアに積極対応するPTA活動
☆地域と子どもとのつながりを深めるPTA活動
☆子どもの生活習慣を確立するPTA活動
☆子どももののちを守るPTA活動

各地域の実践発表やグループディスカッションなどを行い、これからの未来に向けた前向きな意見交換を行います。

午後からは、全体行事・記念講演とし、これまでの功労者の方に感謝をし、『ひと』から知り、学ぶ機会となればと思います。

本大会は、参加下さる皆様が互いに課題や意見を出し合い、生のコミュニケーションを取って頂き、未来への足掛かりとなる機会が生まれる研修大会にして頂きたいと願っております。その為にも、多くの方のご参加とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、米沢市にお越しの際は、米沢の歴史・文化と味をご堪能頂けたら幸いです。

平成26年度 山形県PTA連合会役員名簿

会 長	新関徳次郎	山形市PTA連合会	山 八 中	理 事	佐藤 正光	酒田飽海PTA連合会	酒田一中
副会長	荒井 寛	山形市PTA連合会	蔵王一中	〃	庄司 健二	県小学校長会代表	山 辺 小
〃	齋藤 敏博	米沢市PTA連合会	米沢北部小	〃	鹿野 智	県中学校長会代表	山 四 中
〃	渡部 宏一	鶴岡市PTA連合会	朝陽六小	〃	堀田 理恵	母親委員長	蔵王二小
〃	鈴木 渉	北村山PTA連合会	楯 岡 中	〃	大崎 理恵	母親副委員長	荒 谷 小
理 事	高橋淳一郎	上市市PTA連合会	上 山 小	監 事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	滝 山 小
〃	三宅 和広	天童・東村山PTA連合会	天 二 中	〃	片菊 和芳	天童・東村山PTA連合会	荒 谷 小
〃	田宮 忠和	西村山PTA連合会	河 北 中	〃	江口 俊和	山形市PTA連合会	金 井 小
〃	佐藤 文一	最上地区PTA連合会	新 庄 小	事務局長	村山 良光		
〃	鈴木 聡	東置賜地区PTA連合会	宮 内 小	事務局員	佐藤 静子		
〃	菅野 邦彰	西置賜地区PTA連絡協議会	飯豊一小	事務局員	熊谷 慶子		
〃	佐藤 修	東田川郡PTA連合会	余 目 中				

おしらせ

山形県PTA連合会による

「東日本大震災復興支援事業」

◆東日本大震災からまる四年がたちますが、まだまだ復興への道半ばの地域が多いようです。ただ、懸命に復興に取り組んでいる被災地の方々の力強い表情等が報じられるたび、心がホッとする思いがします。また、被災地の方々は、これまでの支援に感謝すると共に今後は交流を期待していますと話しておりました。

◆山形県PTA連合会としても応援を継続して参りたいと思います。そのために今年度も「書き損じ葉書の回収」を行ってまいりました。今後にも集まった支援金は、山形県独自の活動として、復興支援を目的とした子どもたちや単位PTAの交流活動などに助成いたします。

◆今年度は、三月下旬に山形県PTA連合会として県内の小中学生約五十名が南三陸町に訪問し、復興中の様子を視察したり漁業の作業ボランティアや餅つきランチをしたりして交流を深めてくる予定です。

◆各郡市・単位PTAでもこの支援金を大いに活用し、交流支援を推進していただきたいと思います。